

# 『やられた』

ヤコブ 後藤 明憲

一年も前ではないが、聖水台の前の机に聖人のカードが束ねて置いてあった。なんの説明もなかった。どうい聖人なのか分からないままに、私は記念として一枚をもらった。カードには、その絵にふさわしい祈りがあるので、新しいカードを手に入れようと、私は必ず整理して祈りの本に挟んでとつてある。ところがカードはスペイン語かポルトガル語らしい言葉で書かれているので、読めない上にぶつぶつ発音しても、それらしい聖人名が推測できない。たぶんフィリピンの方が赤ちゃんの洗礼式に使われたのか、ブラジルからシスターが持つてこられたのだろうと思つて、いつか聞いてみようと思つた。いつか聞いてみようと思つた。いつか聞いてみようと思つた。いつか聞いてみようと思つた。

語学が苦手な私はラテン語、スペイン語、イタリア語の辞書だけでは持つていないので、聖人の名前だけでも分からないかと調べても、判明しない。Festa 19 de Abril

とあるから四月一九日の聖人を探しても見つからないし、Santo Expeditoという聖人そのものが聖人列伝や黄金伝説にも載っていない。ネットで調べても日本語のページではブラジルのドロップの商品名しかない。この名前は日本語でどう発音するのだろうかと考え、サント・エクスペディトで検索してみたが不明、諦めてしまった。

ある日、ふとサントをとつてエクスペディトから始めてエクスペディトと検索をしていたら、このエクスペディトがヒットしたのだ。なんとインターネットやハッカーの守護の聖人とあるのだ。およよ・・・しかもバチカンは二〇〇二年にプログラマーの聖人として七世紀の百科全書を著した聖イシドルスの名前をあげており、エクスペディトは非公認の聖人だという。何故、そんなカードが教会に・・・

このご絵の聖像はニューオルリンズのガダルーベ聖母教会にあつて、大変な人気になつていられる。しかもそのいわれがふざけて

いる。イタリアでは願ひ事のためはずっと昔からこの聖人に祈りを捧げていたようだが、話は飛んで一七八一年のフランスの事となる。

パリにある修道女会のあるところに埋葬されていた聖人の遺体が送られてきた。棺にExpedito（至急という意味）と書いてあつたので、殉教者の名前と誤解し、祈つたところ、その祈りが直ぐに届き、熱狂的に崇拜する人たちが生まれたようである。

ニューオルリンズの話もこの話とよく似ている。ガダルーベ聖母教会に何人かの聖人の像が届いたのだが、聖人名が記されていない像があり、その箱にもExpeditoと書かれたラベルが

貼つてあり、やはり聖人の名前と誤認したというのである。地元の人々はどういふ聖人かを調査した結果、有名ではないがアルメニアの殉教者に聖エクスペディトという人が存在したことが判明した。

私が所持している聖人の絵では若い百人隊長がからすを踏みつけ、棕櫚の葉と十字架を持つており、十字架にはHODIE（ラテン語で今日の意味）とあり、からすはCRAS（ラテン語で明日の意味）と鳴いている。「明日ではなく今日だ、怠けては駄目だ」ということのように。ラテン系の人たちにとって、クラーズ、クラーズと鳴いてのんびり昼寝を楽しみたいところだが、IT産業で働く人たちにとっては迅速な解決が望まれるから、頼もしい守護の聖人なのだろう。それにしても出来すぎた話、仕掛け人は誰だろう？

